



- ① 高温傾向が続いたことから生育がやや早まり「コシヒカリ」ほ場で「幼穂形成期」(-25日)を迎えています。今週末頃に、コシヒカリ1回目穂肥の適期となる見込みです。
- ② 草丈伸長が大きく慎重な穂肥が重要となります。必ずほ場ごとの生育診断(草丈×葉色)を行いましょう。

コシヒカリの生育状況(7月10日調査・調査地点平均値)

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/8	64	443	10.6	38.5
和島	5/6	65	401	10.9	40.7
出雲崎	5/5	69	484	11.1	37.0
中部	5/12	64	494	10.4	37.4
こしじ	5/10	63	510	10.9	39.1
平均	5/9	65	468	10.8	38.4
指標値	7/10	66	450	10.7	36.0
草丈：並		茎数：並			
葉数：並		葉色：濃い			

【草丈】

7月上旬の高温・多雨により、6月29日の調査値と比べ、草丈が平均+21.2cmと地域を問わず大きく伸長しています。

【葉色】

6月が低温傾向となったことから、稲体の窒素消費が少なく葉色が濃い状態となっています。

→「草丈×葉色」で穂肥診断を行いましょう

後期栄養確保対策

① 1回目(出穂前18日頃)の穂肥対応

今週末頃には、コシヒカリの1回目(出穂前18日頃)の穂肥時期を迎えます。草丈伸長が大きく葉色も濃いことから、1回目穂肥の慎重かつ適切な判断が求められています。

生育診断チームを活用して適時的確な施肥を行いましょう

② 2回目(出穂前10日頃)の穂肥対応

高温気象下での栄養不足による品質低下を防止するため、出穂10日前の穂肥は“しっかりと確実に施用”して下さい！(窒素成分：1~1.5kg/10a程度)

③ 飽水管理の継続

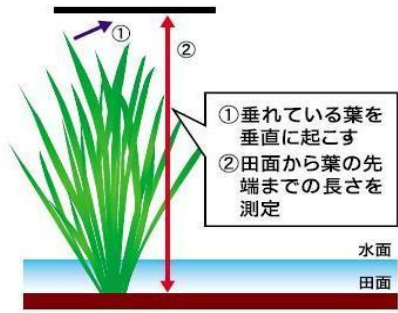
幼穂形成期以降は、極端に強い中干し(断根を助長)、長期間にわたるタメ水は絶対に行わないようにし、地体力が確保できる限り登熟後期まで飽水管理を継続しまししょう。

●●● 必ず圃場ごとに草丈と葉色で「穂肥を施用する時期と量」を診断しましょう！ ●●●

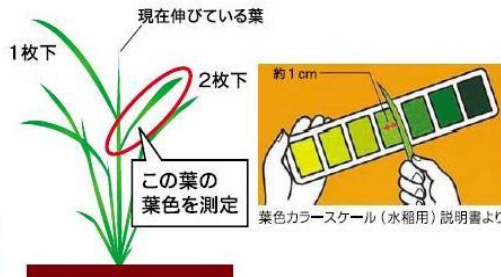
コシヒカリ生育診断 手順1

幼穂形成期（幼穂長 0.1 cm、出穂 24 日前の頃）に草丈と葉色を測定

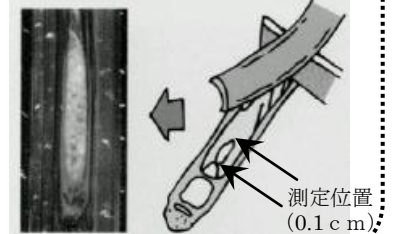
草丈：平均的な生育場所で連続
10株の平均値を測る



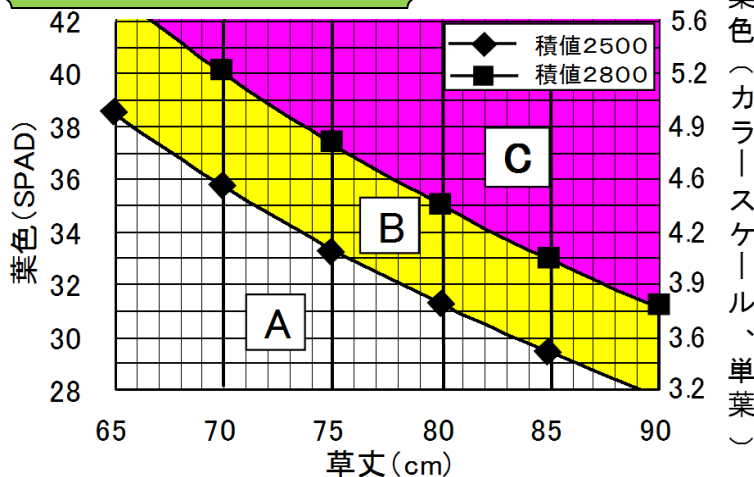
葉色：平均的な株から最も長い茎
を選び現在伸びている葉の
2枚下の葉を測定する



幼穂形成期（幼穂長 0.1 cm）に
草丈と葉色を測定します！



コシヒカリ生育診断 手順2



草丈と葉色からグラフのエリア(A,
B, C)を確認し、下表により穂肥時
期・施用量の判断をします！
葉色を極端に褪めさせない“穂肥対
応”が重要です。



このレベルの葉色値をキープするこ
とが重要です。

コシヒカリ生育診断 手順3

グラフエリア (A,B,C) と幼穂伸長期の1ヶ月予報を踏まえて判断する

幼穂形成期の生育量 (草丈cm×SPAD値)	生育量 早見グラフ のエリア	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
		低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
2500未満	A	○△時期遅め、 量を控えめ	◎出穂18日前に 基準量	◎出穂18日前に基準量
2500以上2800未満	B	× 施用しない	× 施用しない	○出穂15日前に基準量
2800以上	C	× 施用しない	× 施用しない	× △施用しない ただし、異常高温の場合 は、15日前に基準量

★★ 水稻の“生育診断”はJAにお任せください！★★

生育診断チーム 設置期間：7月上旬～7月下旬頃まで

～ 詳細につきましては、お気軽に最寄りの営農センターへお問い合わせください！～